

令和5年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立相生小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・児童が興味や関心をもつ題材を取り上げ、身の回りのことから日常の会話における表現方法を知ることができるようになってきた。
- ・簡単な活動から「分かる」体験を積み重ねることができた。
- ・基本的な表現はパターンを変えながら繰り返し学習し、習得できるようになってきた。

(2) 課題

- ・5つの領域①「聞くこと」②「読むこと」③「話すこと（やり取り）」④「話すこと（発表）」⑤「書くこと」それぞれの学習内容について、均等に児童が慣れ親しむことができるように授業展開を行っていく。
- ・基本的な表現の習得の差により、自信がもてず消極的な児童への対応。
- ・ゲーム、クイズ、チャンツなどの活動を通して楽しむ様子はある。しかし、他者との外国語によるコミュニケーションを行うとなると、目的や場面に応じて、どう伝えたらいいかわからなくなってしまうことがある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率

令和5年度結果	
第6学年	問題全体回答率において、目標値76.8%に対し、校内正答率は、68.5%と、8.3ポイント下回っている。全ての領域で区や全国の平均を下回っている。領域別にみると、アルファベットの読み書き、英作文に関する問題の中に、正答率が大きく目標値を下回っているものがある。

(2) 分析(観点別)

各問題の正答率や誤答の状態を基に行った分析は、以下の通りである。

6年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの読み書きの問題では、アルファベットは正しくかけているが、4線上の書く位置を間違えている場合が多い。また、読み方は正しく聞き取れているが、大文字を書いている。このことから、大文字と小文字の区別やアルファベットの正しい文字（位置）を覚えられていないことが考えられる。 ・対話の聞き取り問題では、時刻 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な位置を表す語句を選び、英文を完成させる問題や、家族を紹介する英文の作成問題では、文の初めの「He」や「She」の書き出しに気を付け、正確な記述ができ、正答が多かった。例文や選択肢があることで、視覚的に考えられ、正答に必要な情報を理解し、解答できていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述式の問題では、「自分の紹介したい人の名前を出し、紹介する問題が出題された。 ・例文を参考に、簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことが求められているが、スペルミスや、文のつながりの言葉が書けていない。短い英作文を日ごろから繰り返し学習することが必要であると考えられる。また、導入などで課題に対して親しみをもてるよう、

<p>は聞き取れているが、天気や気温を聞き取れていない場合や天気は聞き取れているが、気温や時刻を正確に聞き取れていない場合が多い。発音と文字を対照させながら学習させていくことが必要であると考え。</p>		<p>例題の工夫やICTを用いることが必要であると考えられる。</p>
---	--	-------------------------------------

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

関心・意欲・態度	慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
<ul style="list-style-type: none"> ・児童が楽しめるように、コミュニケーションやゲーム、歌を歌うなどの場면을多くする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間に1センテンスなど、スモールステップで理解できるように単元を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を活用して、英語だけでなく多様な言語に触れることで、言語、文化の違いに気付けるようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・実際のコミュニケーションにおいて、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取り、日常生活に関する簡単な事柄で短い話を聞いて内容を捉えさせる。 ・アルファベットの大文字・小文字を識別したり、読み方を発音したりして、慣れ親しませる。 ・児童が学習内容（事柄・話題）に応じた自分の考えや気持ちを伝え合うことが出来るように、教師がペア、グループ、クラス全体と授業形態を変える工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちを伝え合うことや、文章に表出させる学習活動を取り入れる。 ・児童がALTや講師のやりとりを見て、全て理解できなくても、ALTや講師が話すスピードを変えたりキーセンテンスを強調したりと工夫し、児童が自分なりに場面や状況を考え、内容理解に努めさせる。 ・学習指導要領に示された言語の使用場面や働きの例を踏まえて設定し、活動に取り組みせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な場面で、簡単な語句や基本的な表現を用いたコミュニケーション活動から自信をもたせ、他者との関わりを積極的に行えるようにしていく。 ・相手によりよく分かってもらえる経験を積ませるための場の設定として、自分の（行きたい国、食べたい物）をテーマに設定して、自分の考えや気持ちを選択できるようなコミュニケーション活動を取り入れる。